



DVにはさまざまな種類の暴力があります

暴力は殴る、蹴るだけじゃない!

●精神的暴力

- 無視する
- バカにする
- 大切にしているものを壊す
- 大声で怒鳴る



など

●身体的暴力

- 殴る、蹴る
- 突き飛ばす
- 物を投げつける
- 髪を引っ張る



など

●社会的暴力

- 友人等との付き合いを制限する
- 外出させない
- 交友関係や電話の相手を細かくチェックする



など

●経済的暴力

- 生活費を渡さない
- 勝手に借金を作り、返済を強制する
- お金の使い方を細かくチェックする
- 仕事をさせない



など

●性的暴力

- 性的行為を強要する
- 避妊に協力しない
- 嫌がっているのに性的な画像や動画を見せる



など

●子どもを利用した暴力

- 子どもに危害を加えると言って脅す
 - 子どもの前で罵倒する
- など
- ※子どもの前でDVが行われること(面前DV)は、子どもへの心理的虐待にあたります。



DVと児童虐待

パープルリボンは女性への暴力根絶運動の、オレンジリボンは児童虐待防止運動のシンボルです

DVが起きている家庭では、子どもに対する暴力が同時に行われている場合があります。

また、DV被害を受けている人は、加害者に対する恐怖心から判断力や感情がまひしてしまい、子どもに対する暴力を制止することができなくなる場合があります。

DVは、子どもの心身にさまざまな影響を与えられていると言われており、子どものためにも決して許されない行為です。

【DVが被害者に与える影響】

暴力により、ケガなどの身体的な影響を受けるにとどまらず、いつ暴力を振られるかわからない不安や恐怖から精神的な影響を受け、PTSD(心的外傷後ストレス障害)を発症する場合があります。

【DVが子どもに与える影響】

暴力を受けたり、目撃したりすることで、さまざまな心身の症状が表れるほか、自分が育った家庭での人間関係のパターンから、感情表現や問題解決の手段として暴力を用いることを学習することもあります。

暴力を受けても逃げられないのはなぜ?

背景にさまざまな理由が存在します

恐怖感

「逃げたら殺されるかもしれない」という強い恐怖から、家を出る決心がつかないこともある。

無力感

暴力を振るわれ続けると、「助けてくれる人は誰もいない」といった無気力状態に陥ることもある。

複雑な心理

「いつか変わってくれるのではないか」等の思いから、被害者であることを自覚できないこともある。

経済的問題

パートナーの収入がないと生活に困窮する場合、今後の生活を考え逃げるできないこともある。

子どもの問題

子どもの安全や就学の問題などが気になり、逃げることに踏み切れないこともある。

失うもの

仕事やこれまでに築いた地域社会での人間関係など失うものが大きいこともある。

DVにはサイクルがあります



このサイクルが繰り返される度に暴力は激しさを増し、周期も短くなるなどエスカレートすることがあります。また、その度に被害者は頭が混乱してしまい、相手に支配されやすい状態になると言われています。

もし、被害にあったら...

DVは、誰にでも起こりえる身近な問題です。少しでも「つらい」、「おかしい」と感じたら、**ひとりで悩まずに相談してください。**

サンエールかごしま
相談窓口はこちら



相談窓口の詳細は最終頁をチェック!!

DVの相談を受けたら...

- あなたは悪くない
- あなたの話を信じるよ
- よく話してくれたね
- いつでも相談してね

被害者は苦しんでいる中、勇気をもってあなたに相談しているかもしれません。まずは、被害者の話を最後までゆっくり聞いてください。そして、専門の相談機関を教えてください。

デートDVを知っていますか?

同居していない交際関係での暴力を「デートDV」といい、夫婦間でのDVと同じような暴力が見られます。デートDVは中学生や高校生など若者の間でも起きています。鹿児島市では、若年層へのDVの予防啓発として、中学・高校生、大学生等を対象にデートDV講演会等を開催しているほか、市内の全高校1年生にデートDV防止啓発誌を配布しています。

開催実績(直近)	
H30:20校	4,864人
R1:19校	4,095人
R2:14校	2,094人

デートDV防止啓発誌は鹿児島市のHPで公開中。四コマ漫画を使って読みやすい内容になっています。ぜひ、ご覧ください。

